

第 10 回八幡市まち・ひと・しごと創生検討懇談会会議録要旨

○日 時：令和 6 年 7 月 25 日（木） 10：00～12：00

○場 所：八幡市役所本庁舎 3 階 会議室 3－3

○傍聴者：なし

1 開会

2 議事（協議・報告）

（1）次期総合戦略の策定について（4 章）（資料 1、資料 1 参考）

→次期総合戦略案（4 章）について協議

（2）人口ビジョンについて（資料なし）

→平成 28 年に策定した人口ビジョンについて、懇談会及び幹事会の両意見を踏まえ、改めて事務局案を示すことを報告。

3 その他

懇談会でいただいたご意見について

いただいたご意見について、とりまとめのうえ、庁内で共有するとともに、本日の会議内容について、議事録を作成のうえ、市ホームページにて公開を予定している旨説明、了承。

4 閉会

【主な意見等】

（1）次期総合戦略の策定について（4 章）

<委員>

基本目標や KPI について、ただ数値として増えれば良いという訳ではない質的な部分やこれまで議論してきたことや課題として残っていることを総合戦略に反映してはどうか。

<委員>

八幡市ボランティア連絡協議会登録団体の所属人数について、登録者が高齢化している現状を踏まえると、現状値より上の目標値を置くことは、現実的に厳しいのではないかと。

<事務局>

ボランティアの確保には、苦慮している状況であるが、地域のコミュニティの希薄化に対処するには、ボランティアの取り組みは重要であると考えている。社会福祉協議会では、ボランティアに親しんでもらうため、「夏のちょボラ学校」という取り組みを実施している。隙間時間を使ったボランティアが浸透すれば、新たにボランティアに取り組む人を増やせるのではないかと、と考えている。

<委員>

市内の温室効果ガス（CO₂）排出量という指標を追記する必要性は？

<事務局>

温室効果ガス（CO₂）については、様々な議論があると思うが、第2期戦略で入っていなかった「環境」を追加することが目的。住環境を良くすることも住むまちとして選ばれる要素ではないかと考えた。

<委員>

転出入者数について、全国的に人口が減少している傾向を考慮した目標値の設定にするべきではないか。

<事務局>

住民基本台帳上では、令和4年、令和5年は転入超過にあるが、主な要因は外国人の転入であり、日本人は転出超過となっている。その辺りを踏まえた数値の置き方を考える必要がある。

<委員>

地域で連携する団体や住民が連携するネットワークの設置数について、1つの団体で活動する事を想定するよりも他団体と協力して活動できるような体制の構築を検討しても良いのではないか。

<委員>

基本目標については、表現を変えることや補足説明を追記する等検討してはいかがか。

<委員>

松花堂庭園茶室利用者数について、どんな人が茶室を利用しているか。

<事務局>

文化協会主催のお茶会の参加者や外国人観光客なども利用している。

<委員>

文化的価値のある松花堂庭園をさらに活用できないか。

<委員>

検討はしているが、人材不足のため難しい状況である。PRについてはテレビ出演者、デザイナー等観光応援団の協力がある。

<事務局>

当該指標は、松花堂庭園の茶室を市民に知ってもらい、市に愛着を持ってもらうため記載している。

<委員>

松花堂にもボランティアで来てくれてる人がいるが、ガイド協会では市外の人登録も多い。

<委員>

関係人口を広げていければ、松花堂庭園のさらなる活用方法も見えてくるのではないか。

<委員>

市域就職面接会で就業に至った人数について、人数が少ないため、事業の実施方法として違

うやり方を検討してはどうか。

<委員>

八幡市より近隣の枚方市の方が最低賃金が高い状況である。就職先として八幡市が選ばれるのは厳しいのではないか。

<委員>

ホームページアクセス件数については、増えたら良いという理解で良いか。

<事務局>

市の情報発信の基盤となるため、より多くの方に見てもらうことは大事なことでありと考えている。

<委員>

LINE は、市の情報を早く知ることができるため便利であると感じている。友だち登録者数を増やして欲しい。

<委員>

アプリの種類が多いと感じる。アプリの統合を検討して欲しい。

<委員>

ネーミングライツ導入とスローライフタウンの関わりは？

<事務局>

スローライフタウンを推進していくための財源として、また、市をPR していくための手段として記載している。

<委員>

ネーミングライツ導入施設の候補はあるか。

<事務局>

子ども・子育て支援センターすくすくの杜、スポーツ公園等が考えられる。

<委員>

文化センターを活用し、例えば、市を巻き込んで「音楽のまち、やわた」等まちづくりの核とすることはできないか。

<委員>

集客目的の大きなイベントを開催しようとする、文化センターのキャパシティでは収支がマイナスとなる。集客目的ではなく、あくまで市民利用を想定している作りになっている。

<委員>

建設された時よりも、人口減少が進んでいることを踏まえ、市民利用、市外の人が利用する場合、利用料金に差を設ける等施設の運営方法について、再考する必要があるのではないか。

<委員>

徒然草エッセイ大賞の費用に対してのPR 効果はどうか。

<事務局>

毎年安定した応募があり、事業として浸透してきていると考えている。

<委員>

愛着と言う意味では、大分県国東市で高校生と商店街がタッグを組み、商店街の将来を考える取り組みを実施している。八幡市でも将来を担う学生がまちづくりに参画できるような取り組みができれば。

<委員>

若者を呼び込む取り組みとしては何かあるか。アウトドア施設とかはどうか。

<事務局>

男山レクリエーションセンターに、ロッジやキャビン、テント設営場、営火場に加え、スケートボードパークを整備している。

<委員>

中学生、高校生では視野の広さ等違いがあるため、その年代に合った参画の方法を検討してはどうか。

<委員>

学生を対象とし、シビックプライドを結びつけられるような活動を考えられないか。

<委員>

エジソンの竹に因み、竹を使った取り組みはできないか。

<委員>

滋賀県では「びわ湖ピッチ」という、高校生のビジネスコンテストがある。

<委員>

起業家支援も含め、市と金融機関が連携できないか。

<委員>

管理不全空き家対策について、人口減少を考慮すると、更地となった土地等の寄附受入制度のような仕組み等何かしらの活用方法があれば良いと感じる。

<事務局>

八幡市の空き家は、現在は、市場に出るものが殆どであり、管理不全となっても、誰かしら関係者と連絡が着く状態。何でも寄附で受けてしまうと、維持管理の問題がある。

<委員>

自治会の看板はデジタル化されないのか。

<事務局>

将来的にデジタルサイネージ等に置き換わる可能性はあるのではないかと考えている。

<委員>

住民票の取得はキャッシュレス決済に対応しているか。

<事務局>

対応していない。決済手数料等課題はあるが、検討は進めていきたいと考えている。

<委員>

観光施設等については、Wi-Fi 環境を整備している。

<委員>

庁舎の Wi-Fi の整備状況はどうか。

<事務局>

整備している。

<委員>

デジタルの活用については、事業を書き出すほか、市自身でこういう事業を打ち出していますよというようなことを記載してはどうか。

<委員>

外国人向けの日本語の支援として、日本語教室があるが、外国人との共生を目指すならば、市内日本人向けの外国語教育の支援も併せて検討してはどうか。

<事務局>

ベトナム人が多く住んでいる男山地域では、言語だけでなく、関西大学と連携し、文化の相互理解を進めるため、イベントを実施している。日本人向けの外国語教育等の支援については把握できていない状況である。

<委員>

日本人向けの外国語教育については、ニーズがあると考える。検討しても良いのではないか。

<委員>

廃業件数が多くなってきている。難しい創業支援より廃業を食い止める支援に力を入れてはどうか。

<委員>

都市部の場合は、現役の経営者がセミナーを開いたりしている。

<委員>

実際に創業した業種はなにがあるか。

<事務局>

手元に資料がない。

→訪問介護、小売り（無店舗）等

<委員>

創業相談をして創業に至った業種と相談をしないで創業した業種の違いを調査してはどうか。また、創業後、コストがかかるのは、広報である。広報にかかる費用を支援したり、市が市民向けに新たに出来たお店等の広報をしたりする仕組みがあれば、創業へのハードルが下がるのではないか。

<委員>

そもそも創業相談に本当にニーズがあるのか不明。自力で調べて創業する人が多く、制度と実態に乖離があるように感じる。創業相談をしていくのであれば、U ターン、I ターン向けに、八幡市で創業するメリットを打ち出してはどうか。

<委員>

農業については、そもそも育成する人材がいない状況である。20 歳代はごく少数である。現在、農業を行っている中心的な世代である 50 歳代の子どもたちにあたる 20 歳代は、既に外に出てしまっていることが多い。

<委員>

デジタル化は必要であるとは考えるが、デジタル化一辺倒で進めることは危険であると感じる。

<委員>

職員が少ない状況において、デジタル化の力を活用するほか、関係団体やボランティアの力を借りるなど、地域の繋がりを活用しながら事業を進めていく必要があると考えている。

<委員>

デジタル化が進んでも、その先には人がいることを意識し、地域の繋がりを大事にする必要がある。

(2) 人口ビジョンについて

意見なし